

KAMO HIGH SCHOOL INFORMATION

Kamo



加茂高だより

第140号

2016年(平成28年)

7月15日発行

発行者：県立加茂高校 PTA

編集：広報部

*6ページは定時制のページです。

講会入り口一覧



長い人生の中で、ほんの3年間しか味わうことのできない高校生活。この特別な時間を、加茂高生として充実あるものとし、将来の輝かしい未来に向かって、良き友と共に成長し続けていきましょう。

(副会長 尾関 雅宣)

皆さんには、加茂高の校風である文武両道について、どのように考えてみえますか。部活動に打ち込みながら、勉強も一生懸命に取り組むことは難しいのではないかと思われる方もみえるのではないかでしょうか。部活動を行うことで、物理的に勉強時間が制約され、体力的にも疲れてしまい、時には机に向かう気力さえも低下することもあるかもしれません。

しかし、人間は忙しい時はどうぞ忙しく、限られた時間を作り効率的に、かつ効率よく使おうとして、集中力が増すのだと自分は考えています。

また、勉強だけで高校生活を終えてしまったとしたら、空虚で味気ない高校生活になってしまいます。

この2つを両立させることで、高い学力と心身が鍛えられ、心豊かな人間性を養うことができ、文字通り加茂高の教育目標の実践に繋がるものと思っています。

加茂高春秋



ごあいさつ

PTA会長 奥田 重信



伝統の文化祭に向けて

校長 平野 弘

加茂高生の皆さん、青春の高校生活を思う存分後悔しないように一生懸命生きてください。私たち親が責任を持って応援していきます。

「どうで私たち親は、皆さんに何を望んでいるのでしょうか。良

い大学に入つて欲しいとか、甲子園に行つてアプロになつて欲しいとかそんなことを望んではいませ

ん。想いは一つ。あなたに幸せになつて欲しい。たくましい人間になつてほしい。思つています。

人生頑張つても、努力と結果は正比例するとは限りません。受験もそう、恋愛もそう、仕事もそ

うです。努力しても結果がすぐ出るわけではなく、我慢し努力していると段々烟のように成果が出てきま

す。結果が出るまで根気よくあきらめない、たくましい気持ちが重

要です。加茂高校ではそれを学んで一生使える強い心を鍛えてく

さい。

東北震災の被災者でひとりの小學生の豆葉「お父さんお母さんもお兄ちゃんも皆目の前で流れてしまい、だれもいません・手遅れだけど、今までどんなに辛せだったか分かりました。」熊本

地震被災者のお父さんの豆葉「子どもが私たちの希望です。子どもたちの未来のためよろしくお願ひします。」全てを失つて亡くなる真的言葉だと思います。

あなた達が将来どこにいても、私たちはあなたのために生きています。みんなのお父さんお母さんも、あなたのためなら、身代わりになり、災いの盾になりあなたを守つてくれるでしょう。

あなたは家族の希望です。命を大切にして、人に優しく、夢を目指し、人の役に立つ人間になつてください。皆さんの光り輝く将来を祈っています。

今年度もPTA主催の事業として進路ガイダンス、講演会、加茂高祭の支援等を行つてまいりますので保護者の皆様、地域の方々のご支援ご協力を宜しくお願ひいたします。

最後になりましたが、PTA総会の折りには、熊本募金活動を行ない、多数の皆様にご協力をいただきました。この場をお借りしてお礼申し上げます。

PTA役員紹介

会長	奥田 重信
副会長	尾関 雅宣
副会長	森下 稔恵
副会長	奥野 弘基
会計	山口 直樹
会計	可児 功吉
会計	熊崎 真幸

一年学年委員長	遠藤 一夫
研修部長	高木いづみ
二年学年委員長	岩井 麻里
広報部長	百瀬 玉緒
三年学年委員長	中根 康範
進路学習部長	大川みどり
役員選考委員長	富田 勝也

かつて我が国では大量生産、大量消費がもてはやされた時代がありました。そういう時代には、「いかに早く、正確に、求められる物を提供できるか」が勝負であり、「言われたことを言われたとおり、効率よくこなす人材」が重宝されました。やがて、商品が市場に行き渡つてしまつて、次には、付加価値のある商品が求められるようになります。「いいもの」が一樣だつた時代から、多様な価値観が存在する成熟社会の登場です。現代はまさにそのまつた中であります。企業は様々なサービスや附加值を見いだし続けなければ立ちいかなくなる時代になつてきていました。

そういう時代になると、「自分で意欲を持ち、自分で思考・判断し、表現する力」が求められるようになります。

今年の加茂高祭は8月30日から9月1日間。生徒たちの活躍に大きな期待を寄せています。ぜひ、来校いただき、彼らの生き生きとした姿をご覧ください。

うになります。さらには、21世紀型のスキルと呼ばれる「協働的に問題を解決する力」も要求されるようになります。本校ではこれら之力を使はずための活動として、加茂高祭を位置づけています。

様々な制約のある中、どのようにして自分たちの思いを表現するか、何を訴えたいのか、どうしたらうまく伝わるかなどの課題に対する解答を、実際の活動の中で見いだしていく機会であり、さうに

は、各自が、自分にできることは何か、個々の活動の中で自分が果たすべき役割は何なのか、「気づき」を得る機会でもあります。今年の加茂高祭は明るく、元気に活動することがこの地域の発展、活性化に繋がると信じています。元気な学校、活気あるまちづくりを目指して、平成30年に「創立70周年事業」を計画しています。皆さんの「意見・アイデア」をいたたき有意義な記念事業にしたいと考えていますのでご支援・ご協力をよろしくお願いいたします。



加茂高同窓会会長 渡辺 隆晴

創立70周年について

詳細は加茂高同窓会ホームページをご覗ください。
<http://www.kamoko-dousoukai.com/>

担任学年主任等紹介

前列：正担任 後列：副担任 (○)：学年主任



古田 大博 保健体育	田舎 紀穂 国語	鈴木 錠 数学	山田 聰 英語	木村 亮子 英語	渡辺 俊丈 数学	福井 寛子 家庭
岸 重美 英語	中島 将一 三組 理科	前田 博子 四組 国語	柴田 佳祐 五組 地理公民	可児 泰幸 六組 地理公民	吉川 敏幸 七組 球技	降旗 一成 三六番



橋本 匠代 国語	今井 弘文 数学	長澤 哲明 理科	井上 優郎 九組 理科	吉田 啓 八組 保健体育	石井 清治 国語	成瀬 和康 国語
○ 丸谷 利幸 国語	中島 将一 三組 理科	前田 博子 四組 国語	柴田 佳祐 五組 地理公民	羽中田 那理沙 七組 英語	佐藤 正樹 五組 英語	竹内 洋平 六組 数学



桂川 金吾 地歴公民	杉山 典孝 保健体育	酒井 宏昌 八組 理科	津田 健介 九組 数学	高木 吉保 七組 英語	酒井 哲 六組 (国語)	渡邉 克尋 数学
田中 美紀 地歴公民	河田 春子 (国語)	出川 錠之 五組 地理公民	田中 里香 四組 英語	水口 哲人 六組 (理科)	柳山 セイ志 国語	高木 勇 七組 数学



林 恵 理科助手	田中 美紀 地歴公民	河田 春子 (国語)	田村 直明 物理	伊藤 佳季 事務担当	伊藤 加那子 会計担当	山田 吉正 生徒会長
小島 礼子 国語	○ 田中 麻衣子 国語	河田 春子 会計担当	平野 弘 校務	佐藤 知子 会計担当	吉田 加那子 会計担当	吉川 晴美 生徒会副会長

奮闘努力

1年生は、2年後の進路実現を見据えて、規則正しい生活習慣を確立し、基礎的な学力を定着させることを目標とっています。

そのためには、目の前の授業や家庭学習、部活動、学校行事に全力で取り組むことが大切だと考えています。

結果は大事ですが、結果に至るまでに自分がどれだけ奮闘努力できたかにこだわって生活していきましょう。1年の成長を大いに期待します。

一年学年団

自己表現力を高めよう！

2年では、「総合的な学習の時間」を基幹として、具体的な進路目標を定めることを第1の目標としています。大学に行くのは目標達成のための手段、まずはどんな自分でありたいかを考えることが必要です。

次に、学習活動はもちろん、部活動やHR活動、球技大会、学校祭、修学旅行などの学校行事で行う自主的な活動の中で、様々な表現力を身につけて、その表現力を活かして、他の誰でもない、「自分自身」を確立することを期待しています。

二年学年団

Challenge

この1年間は自分の将来を決定する重要な1年間となります。受験とは自らの試験に合格することだけではありません。これから何十年と続く自分の人生を自分で選択し、決断し、切り開いていく第1歩です。

現在に満足をしてしまっては、自分希望の将来の姿を見いただし、そこに向かって日々邁進していくことが豊かな人生を実現させる第1歩です。

三年学年団

部 準 名	部 準 名	部 準 名	部 準 名
陸上競技	吉川 杉山晃 生駒	吹奏楽	鈴木 岸 武田 [渡辺]
柔道	酒井 前田 佐藤正	美術	降旗 田之本
剣道	長澤 水口	芸術	高木志
弓道	井上 鷹嶋 林	演劇	加藤 横山 [山内]
野球	土井 吉田 中島	書道	田中里 高木小 [岩垂]
卓球	坂田 杉山清 安江	自然科学	木澤 河田
バスケットボール	男 細野 小島知 [高野]	放送	可児
女 津田 渡邉克	女 津田 渡邉克	パソコン	石井
バレーボール	男 出川 丸谷	新聞	桂川
女 今井 橋本	女 今井 橋本	図書・将棋	田中 岩井 長谷川
ハンドボール	女 金森 安達	手話	後藤 「武山」
サッカー	矢崎 小林	コーラス	山田千 小島礼 [武藤]
ラグビー	柴田 織部 大塚	緑色回観	櫻井 木村
テニス	男 白井 大塚		
女 古田 青山	女 古田 青山		
ボート	女 竹内 成瀬 (赤塚)		
ソフトボール			

〔 〕：講師

事務・担任以外の職員

大会

3日(水)

好天に恵まれ絶好の球技大会日和でした。最初は体育の授業の延長かなと甘く考えていました。しかし各競技とも決勝に進むにつれハイレベルな技やひたむきなプレーが見られ、チームワークも良く見応えタップリで先ほどの考えを反省することになりました。

また、クラスや学年に関係なく友人や先輩を応援する生徒たちの姿に満々しさを感じました。広報委員として思いがけず撮影する機会をいただき『青春』の1場面を見ることができ、感謝申し上げます。

(広報委員 S-1)

バスケット女子優勝 3年6組

3-6 サバス 優勝しました!

バレーボール男子優勝 3年7組 A

グラツィエ!
アモーリ!!

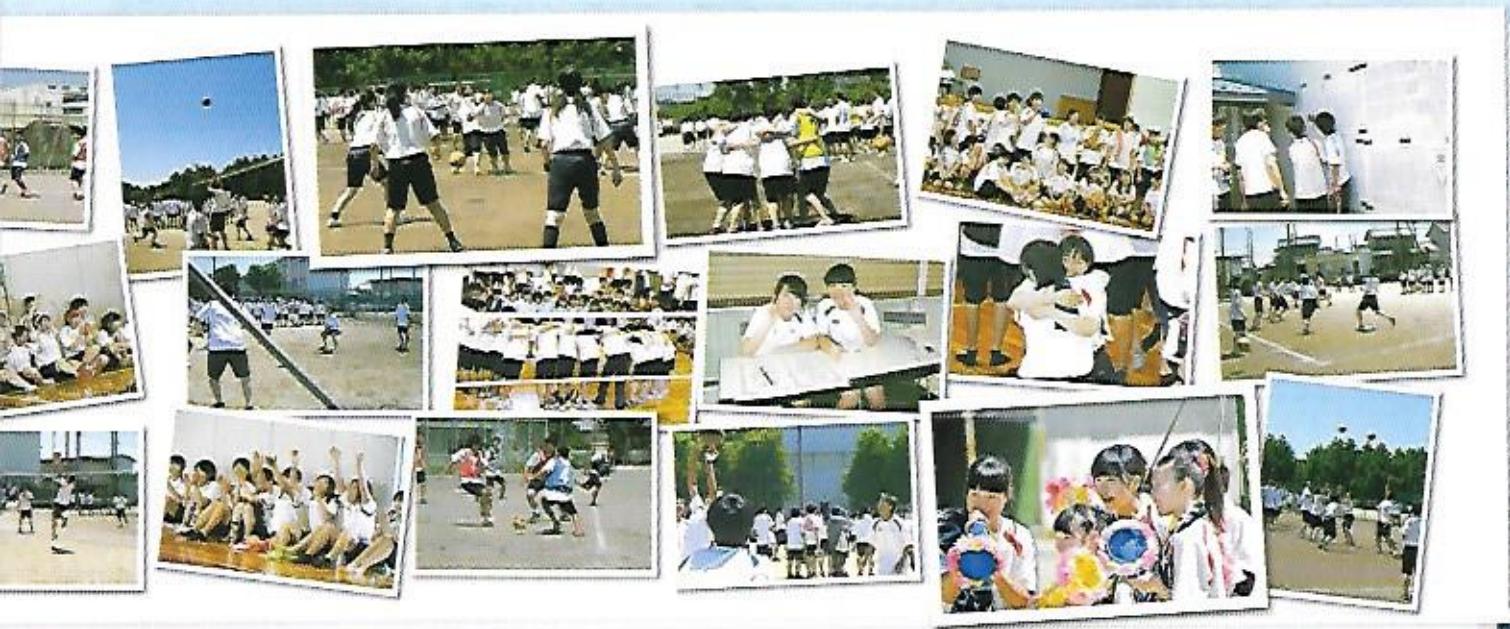
P.S. 体育館にて
1位受取式を行います

サッカー優勝 2年7組

サッカー 2-1
1位 やたぞー!!

■成績結果

	1位	2位	3位
バレーボール(男子)	3-7A	2-6A	3-5A, 2-8A
(女子)	3-4A	3-1A	3-2A, 2-1A
バスケットボール(男子)	3-9	1-2	1-1, 2-7
(女子)	3-6	1-5	3-4, 2-6
ドッジボール(女子)	3-5	3-4	3-1B, 1-8
サッカー(男子)	2-7	3-8	3-9, 3-6



 バスケット男子優勝 3年9組

 バレーボール女子優勝 3年4組 A

3の4の
ケセガズジレ



良く晴れて夏のような暑さの中、日焼けを気にしつつ球技大会の撮影に挑みました。
少々緊張していましたが、子ども達の姿を見たとたん楽しい!という気持ちに早変わりし、何とか良い写真を撮りたいと思いながら、ついつい見入ってしまい応援したりしていました。

若いって素晴らしい、青春って感じだなあと月並みなことですが、本当に心からそう思いました。

写真を撮らせてもらったのに載らなかった子ども達、ごめんね。子ども達のキラキラした姿に感動したこと忘れずに、中年のおばさんも日々がんばろうと思います。とても充実した一日でした。ありがとうございました。
(広報委員 A・M)

 トッシボール優勝 3年5組


球技

5月18日

2016 ALBUM



ようこそ 定時制へ

副校長 増田文代

「おはようございます。」今日も元気な声が響きます。定時制の一日の始まりです。校門では、先生達が登校してきた生徒達を出迎えます。自転車を勢いよくこいでくる生徒、友達とお喋りしながら歩いてくる生徒。お気に入りの服をまとい、授業に向かいます。

授業は午後5時25分から8時40分までの4時間授業。1時間の授業は45分。授業を覗くと、先生の話に聞き入る真剣な眼差し。先生のユーモアあふれる話に起る歓声。未知の世界を知つた時の驚きの表情。先生に質問する声。日中の仕事に疲れてうツラウツラする生徒。ちょっと集中力が切れて、先生に茶々を入れる生徒。様々な個性が集まっています。生徒たちは高校卒業と進路希望の実現を目指して頑張っています。部活動は授業後、9時30分まで。バドミントン、サッカー、バスケットボール部。日本語を勉強するアクティブラーニング部。定時制高校の大會もあり、大会前は特に練習に力を入れります。

生徒数は122名。年齢は15歳から60歳代まで。その多くが働きながら通学しています。外国籍の生徒も増加しており、年次生は60%を超過しました。日本語のみならず、ポルトガル語やタガログ語、英語が飛び交いまるで外国にいるようです。言葉や習慣、考え方などの文化や年齢などが違う生徒たちがお互い認め合い、尊重し合いながら立てる力をつけ、夢を持つて社会に羽ばたいていくところを願っています。今後とも、保護者や地域の皆様のご理解・ご支援を賜りますようお願い申し上げます。



職員紹介

高橋 義教	武藤 一郎
玉木 生活指導室主任	伊藤 (事務部長)
杉山 3歳	平野 (校長)
上野 2M	増田 (副校長)
三輪 4L	若宮 (2L)
渡部 進路指導室主任	田口 (教務)
岩田 教務主任	尾関 1M

部活動

サッカー部



県大会(6月4日)
二回戦 ● 1-3 華陽F
三位決定戦 ● 1-3 阿木

世野英寿

僕たちサッカー部は、全国大会出場を目指し、日々練習に励んできました。新入生を含めた十七人全員の仲が良く、切磋琢磨してお互いを高めました。

県大会初戦は、昨年度負けた学校が相手で、全力で戦いましたが雪辱を果たすことはできませんでした。実力の差を実感し、とても悔しい思いをしました。

しかし、十七人の仲間で支え合って、すぐに「秋季大会は絶対勝とう」と気持ちを切り替えました。これからも練習に前向きに取り組み、チームワークを生かして強いチームにしていきたいです。



今回の大会には、三名が出場しました。いずれも二回戦敗退し、今年度は新入部員が加わり、大会にも応援に来てくれました。毎日の練習においても活気があります。秋の大会に向けて、新たな仲間たちとともに、今まで以上にバドミントン部を盛り上げていけたらと思います。



ケータイ安全教室

片岡優希

近年、携帯電話やスマートフォンの間違った使用でトラブルに発展することが問題視されています。身近な話として、外部講師をお招きして、携帯電話についての正しい使用方法について講話をいただきました。



交通安全講話

(5月30日)

加茂自動車学校の協力で、交通安全講話を行いました。主に一年生は自動車のルールについて学び、二年生は自転車、三年、四年生は自動車のルールについて学び、改めて交通ルールに対する意識を高めることができました。

また、事故多発地帯についても学び、普段の登下校で気をつけるべきことがわかりました。



生徒数は122名。年齢は15歳から60歳代まで。その多くが働きながら通学しています。外国籍の生徒も増加しており、年次生は60%を超過しました。

部活動報告



全国高校選抜ボート大会 3位 ☆女子舵手付きワオドルブル(今枝、可児、高野、測上、西田)☆

全国高校選抜ソフトボール大会 出場

全国高校総体 出場

全国高校将棋選手権 出場

☆西尾・将棋部 将棋の部 中島灯希☆

☆ボート部 女子舵手付きワオドルブル(今枝、西田、市田、測上、可児)☆
☆ソフトボール部☆

全国高校選抜大会 静岡県 3/22

個人
ダブルス

男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

ボート部	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

サッカーボード	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

バスケットボール部	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

野球部	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
男子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野
女子ダブルスカル	西田、市田、若林、伊賀、高野

自分のこと

進路指導部長

生駒 伸一

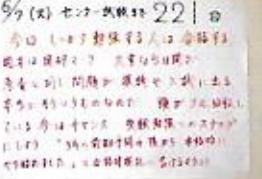
毎年のように自然灾害の被害が出ます。日本という国の宿命ではありますが、今回の熊本は修学旅行先であり、私自身も直前に当地を旅行したばかりだったのでいつも以上に怖さを実感しました。お見舞いを申し上げるとともに、復興を願うばかりです。ここでは最近感じていることを述べるとともに、昨年度の本校の入試結果を振り返りたいと思います。

自然灾害が起きた時に「行政の対応」ということが話題になりました。その中には「避難指示が遅かったか検証が必要があります」など、行政の対応を批判した声も聞かれます。自分も公立学校の教師ですので「行政の一員です。災害が起きれば当然「対応する側」です。実際に本校でも私たちには警報が出た際に、暴風の中生徒を駅へ送つたり、帰宅できない生徒のために炊き出しの準備をしたりしました。できる限りのことをし、生徒もこちらの指示をよく守つてくれました。

ただ、気になっているのは「誰かに指示をされてそれに従う」だけの大人を育ててはいけない、ということです。自分で判断して、自分で行動できる人間を「大人」というはずなのに、自然の恐ろしさを知る」とを含め、豊富な人生経験を積んだはずの人が、「役場の判断が遅かったせいで」と憤つたり、行政の失策ばかりを追求したがるマスクの論調を目にしたりすると、「大人」って何だろうと思うのです。行政に失策が多いのは事実です（自分も）し、個人では対応できないこともあります。行政批判や行政への要求の前に、「まず自分で」判断する力が要求されます。「指示待ちと批判」だけでは大人は育ちません。

さて、昨年度本校では国公立大学に49名が合格しました。昨年度は近隣の進学校が軒並み、国公立大学への合格者を30名以上減らしていますが、本校も苦戦しました。昨年度より一クラス少ない学年ではありますましたが、少し残念な結果でした。その一方で、南山大、名城大、愛知大、中京大など、この地区で人気の高い大学についてはそのすべてで合格者を大幅に増やしました。生徒数が減少した中での増加です。なので見えた。生徒が減少した中での増加です。そのため思っています。

災害に限らず、先を見通すことが難しい現代にあって、自分の生き方を決めるのはたやすいことではありません。大人になるために判断力を磨く過程において失敗はつきものです。学生時代には次につながる「よい失敗」をたくさんして、自分の成長につなげてほしいのです。本校では様々な行事や取組の場があり、自分から「よい失敗」を経験できる環境が整っています。「自分で判断して行動できる大人」をいつしょに育てるため、今後ともご理解とご協力をお願いします。



平成28年度入試合格者数一覧表

	合格者数
国公立四大	49(4)
私立四大	580(40)
公立短大	3(0)
私立短大	19(0)
医療系専門学校	29(0)
その他の専門学校	22(1)
公務員	3
その他	27

() 内は内数で過年度生数



大学見学

6月23日、雨上がりの朝、バス2台を貸切りで加茂高校を出発しました。まず、名城大学天白キャンパスでは、窓の広い講義室で学級担任会。その後、在学生の案内で校内見学。昼食は学生たちと同じように学食をいたたき、帰立生長々子キャンパスでは、学校説明会を受けていました。また、入学式で、より一層お子様との会話をきっかけにしていただけたと思います。まずは実習に行ってみる事は大切な事だと感じました。

お子様が在学生中、三回のチャンスがある大学見学です。一年に一校を予定していますのでチャンスを有効に利用され来年もどうぞご参加下さい。また入学式まで、より一層お子様との会話をきっかけにしていただけたと思います。

今回も、たくさんの方に参加いただきました。多くのお父様にも参加いただきました。来年につなげて行けたらと思います。

今年度も雨で一日延期となった球技大会でしたが、当日は、夏を感じさせる青空の下開催されました。

どの球技も、仲間を信じ全力で戦う姿があり、コートの周りでは力一杯声を出して応援する仲間がいました。対戦後、勝った方の握手も、仲間を信じ全力で戦う姿が見受けられました。それぞれのチームも輝いていて、お互いの絆がより深まり、クラスの团结も強くなつたようでした。そんな彼らから私たちも沢山の元気をもらいました。

今後も、加茂高校だけでなく、地域の方々にも発信していくたいと思います。

編集後記

